

和の生活マガジン

昭和54年6月18日第三種郵便物認可
2007年9月1日発行(毎月1日発行)第35巻第6号(通巻510号)

Sakuro

きものスタイリスト石田節子

きもの恋をしています。

ちゅう

9

2007 vol.143

長月号

和紙と竹骨の柔らかく懐かしい「あかり」 古都里—KOTORI—(日吉屋)

紙を透した優しく柔らかな懐かしい光りと、竹骨が織り成す幾何学模様、の美しさを活かした照明。そこには、日本人の感性に寄り添う温もりがある。京和傘の老舗・日吉屋が開発した「古都里KOTORI」は、和傘作りの技法を応用したオリジナル照明器具だ。シェードの開閉や取替えが容易で、和傘のようにコンパクトにたたむことが出来る。

和紙は、平安時代の女性たちが恋文をしたためたという



●ランプシェードは取替え自在。季節やシーンに合わせてシェードを付け替え、空間のイメージをさまざまに演出可能。
●京和傘のように開閉ができ、コンパクトに収納出来る。



和風照明「古都里KOTORI」
シェード部分展開時 直径380mm 高さ205mm
シェード部分収納時 直径70mm 高さ330mm
色：ナチュラル、黒、赤、紫、切絵
60,900円

日吉屋
東京都台東区浅草橋3-24-8 ☎03-3862-6011 <http://www.h-concept.jp>



匠の技が光る文机を置けば、そこが書齋。 文机(和家具) 匠の郷

樹 齢を重ねた本物の木の家具には、深い味わいと時の流れの薫りが漂うもの。岩谷堂筆筒製造の文机は、重厚感のある堅牢なつくりの中に繊細さを秘めた逸品。二人の職人が木取りから貫して行う木地作り、使い込むほどに光沢を増す拭き漆仕上げ、そして、八〇〇年の歴史を誇る南部鉄器の金具が見事に調和している。

どれほど暮らしが西洋化しても、私たち日本人が、靴を脱いで床に座るスタイルを忘れることはないだろう。「一座の文化」の伝統を、現代のリビングに取り入れてみたい。



197,400円
(写真左の時代筆筒は別売り)
●サイズ:W120×D60×H35cm
●主材:ケヤキ上塗り突板
●引出:桐材
●塗装:拭き漆
●金具:伝統南部鉄器

和家具 匠の郷
神奈川県厚木市南町27-9 ☎046-228-7716 <http://www.wakagu.co.jp>

道端の、野の花を摘んで、活けよう。 ミチクサ(アッシュコンセプト)

散 歩の途中、ふと見かけた野の花々や草々に、こころ奪われ、癒される、そんな経験をお持ちでは……。可憐な野の花を机の上や、パソコンの隣など身近なところに飾るのにぴったりなのが「ミチクサ」という名の可愛らしいガラス製の花器。花を支える部分が剣山のようなカタチをしているが、花を挿すのではなく、剣山と剣山の間に花を飾る。間はすべてが同じ大きさではないため、茎の



1,890円
●製品サイズ:直径67×H37mm
●製品重量:200g
●パッケージサイズ:W73×D73×H47mm
●材質/本体:パルウムガラス、樹脂パーツ:ポリカーボネート

アッシュコンセプト
東京都台東区浅草橋3-24-8 ☎03-3862-6011 <http://www.h-concept.jp>

あぐらが気持ち良い、木の座布団 エコアス馬路村

「これ、ナニ？」と思わず首をひねつてしまいうようなインパクトのあるデザイン。「モナツカ Monacca」というネーミングも楽しい同商品は、畳の部屋はもちろん、モダンなリビングにさりげなく置いても映える、いわばニュー座布団だ。

柚子の郷として有名な高知県馬路村産のスキの間伐材を薄くして重ね、リサイクルの堅いコルクを芯材に使った究極のエコプロダクト。

モナツカ(とさこや)

片手で楽にもてるほど軽い。通常の座布団のように沈み込むことがなく、あぐらをかいたとき、楽に座れるのが特徴だ。テーブル代わりにしてティータイム、そんな使い方でも楽しめる。



12,600円
●サイズ:直径40×高さ3.5cm(座面30cm)
●重量:約500g
●材質:スギ、コルクリサイクル材(内部の支持材)
●耐荷重量:90kg

とさこや&ランカ
☎11時～19時 土日祝 ☎088-854-5562 <http://www.works128.net>